

# 樽前山

## 1 概況

A 火口やB噴気孔群は高温の状態が続いており、火山活動は引き続きやや活発な状態です。火口近傍では注意が必要です。

## 2 地震および微動の発生状況

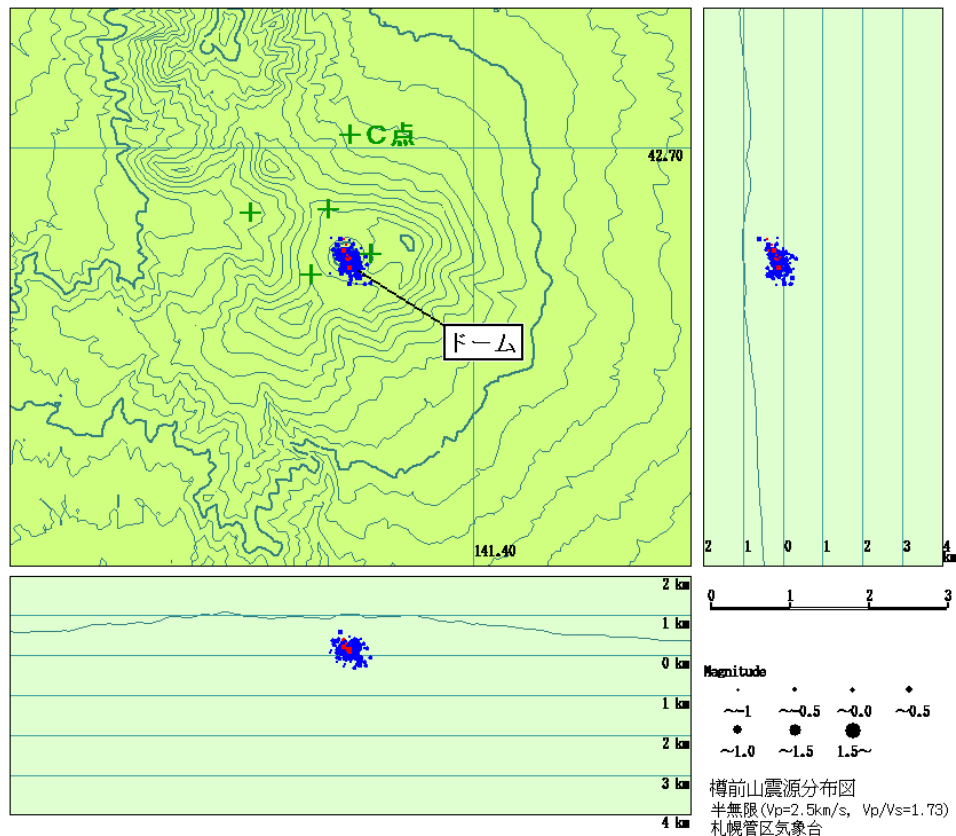
今期間は、1日あたり0~4回と少ない状態で経過しました。震源はこれまでと同様、山頂火口原の浅部（海拔前後）に分布していました。火山性微動は観測されませんでした。

地震・微動の月回数（C点）

2003~2004年	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
地震回数	151	283	58	37	10	19	77	34	44	46	81	24
微動回数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

## 3 噴煙の状況

今期間の各火口の噴煙の状況は前期間と大きく変わらず、噴煙の高さは火口縁上おおむね100m以下で推移しました。

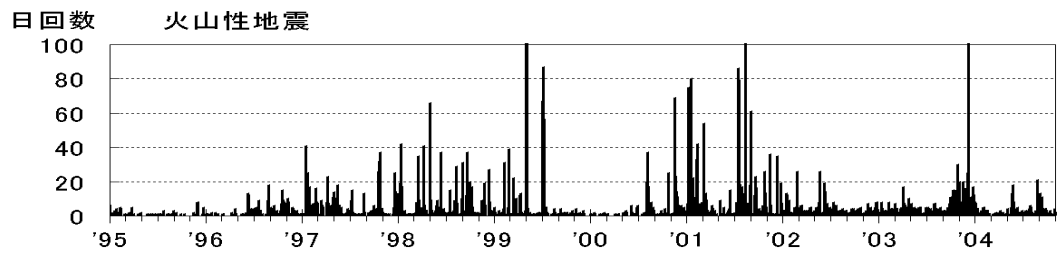
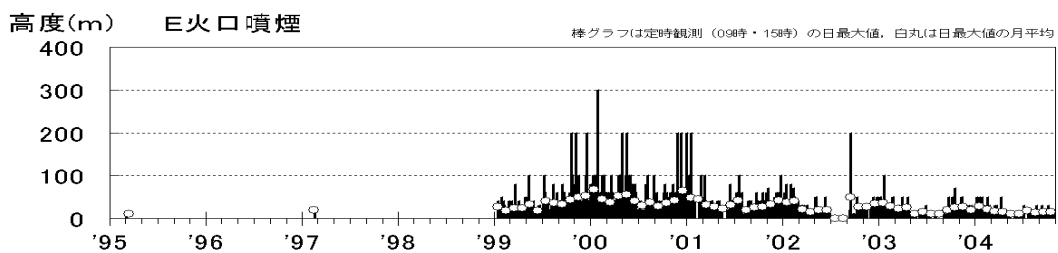
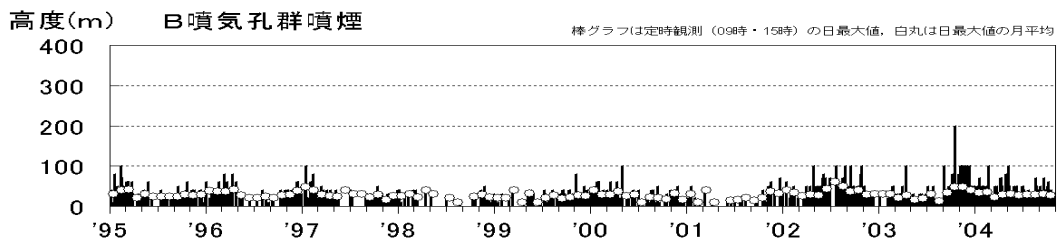
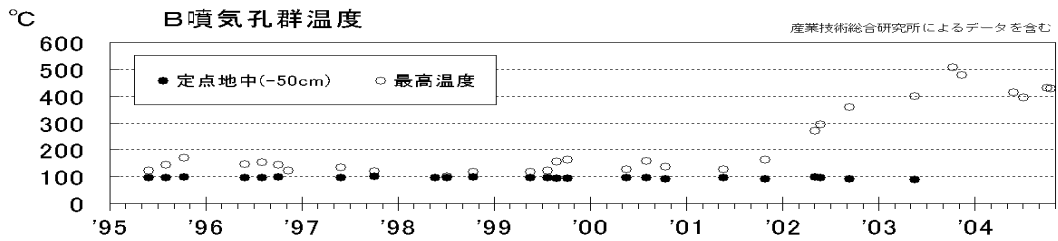
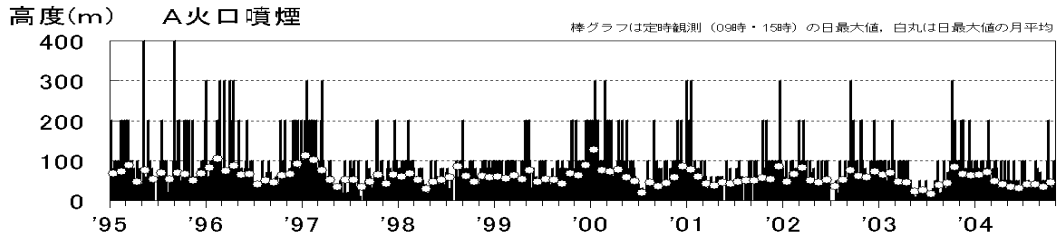
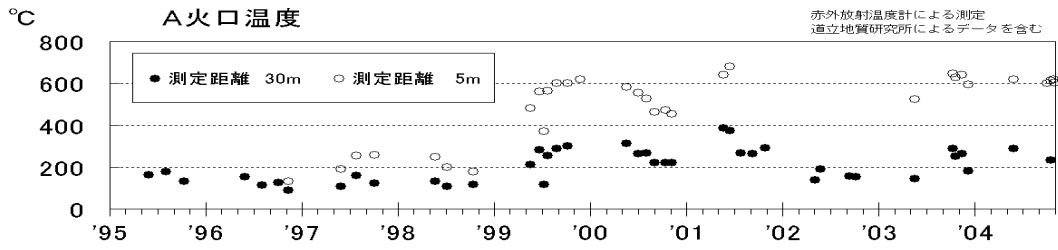


樽前山の震源分布図（丸印：震源、+印：地震観測点）

赤丸は今期間（2004年10月1日~31日）に求めた震源を示しています。

青丸は前期間までの11ヶ月間（2003年11月1日~2004年9月30日）に求めた震源を示しています。

過去の震源分布はほとんどが山頂ドーム直下の浅部（海拔付近）に集中しています。



最近の火山活動経過図(1995年1月1日~2004年10月31日)

#### 4 調査観測の結果

10 月 13～16 日および 24～25 日に調査観測を実施しました。A 火口および B 噴気孔群では高温の状態が継続しています。

##### 【A 火口】

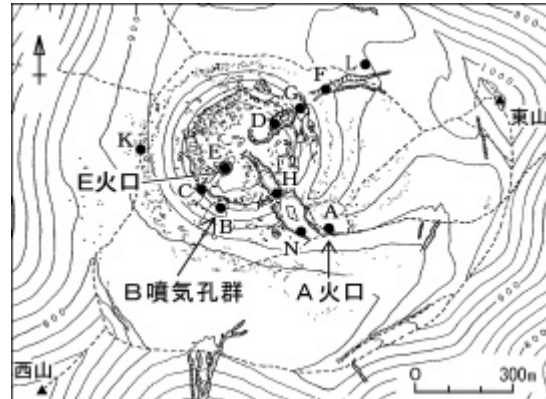
噴煙の勢いは弱いものの、強い SO<sub>2</sub> 臭が認められました。赤外放射温度計\*で測定した火口温度は依然として 600 以上と高温の状態が継続しています。

##### 【B 噴気孔群】

複数の噴気孔から白色の噴気を勢いよく噴出し、強い刺激臭が認められました。最高温度は約 430（前回 5 月 26 日：約 410）と、引き続き温度の高い状態が続いています。赤外熱映像装置による観測では、新たな高温域は認められませんでした。

##### 【その他の火口・地熱域】

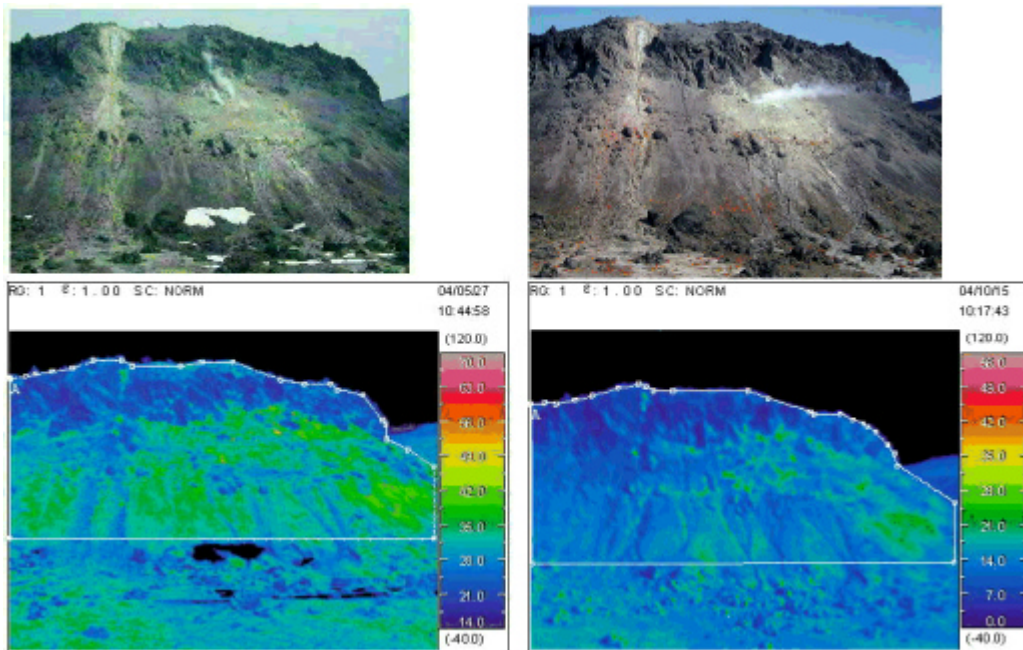
特に変化はありませんでした。



樽前山山頂ドーム周辺図  
（A～N：調査観測ポイント）



B 噴気孔群の噴気孔（10 月 15 日）



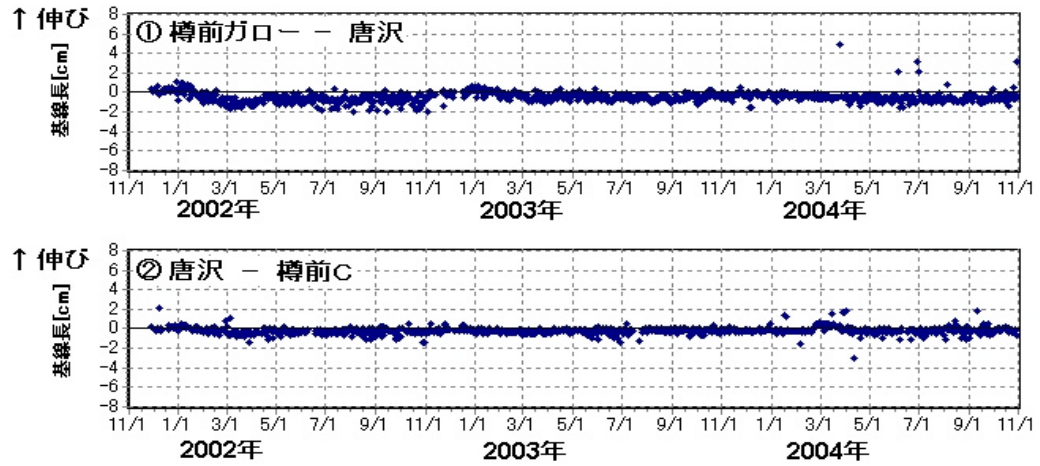
B 噴気孔群およびドーム南西亀裂の表面温度分布（左図：2004 年 5 月、右図：2004 年 10 月）

【全磁力観測】

全磁力繰り返し観測では、2004年5月～10月の間に火山活動の活発化を示す変動は認められませんでした。

5 地殻変動の状況

GPS連続観測では、火山活動に関連すると考えられる変動は認められません。



基線長変化(2001年11月14日～2004年10月31日)

